

院内研究大会

第9回医療マネジメント大会

2007. 11. 30

当院におけるハイパーサーミア（温熱療法）の現状

臨床工学課 小澤章宏

I. はじめに

ハイパーサーミア（温熱療法）は、体表に高周波（ラジオ波）を加え加温することで、癌細胞のみを死滅させ、癌細胞の縮小や進行の遅延、免疫系の活性化や放射線、特に化学療法との併用での増強効果など、癌に対しよい効果が期待できる治療法である。ハイパーサーミアの治療法や過去9年間行ってきた治療の現状を報告する。

II. 対象

当院では平成10年12月からハイパーサーミア治療を導入し、平成19年10月までに計5,358回の治療を行い、治療クールは週2回で、3週間で計6回、1回の治療時間は60分間であった。

III. 治療の現状

治療を行った症例の中には、癌細胞の縮小や余命の延長、疼痛の緩和、食欲増進、気分が良くなるな

ど、QOLが向上した例もあったが、単独治療での完治した例は残念ながらない。しかし、従来の癌治療とは異なり、副作用が殆どなく、病態に応じて何度でも治療できる利点を持っている。また、全国でハイパーサーミアを行っている施設も少ないことから、治療を希望する問い合わせが常時あるのも現状である。

IV. 結語

ハイパーサーミアを行うことで疼痛が緩和されたり、また治療法がなく悲観している患者にとっては、ハイパーサーミアを受けられることで希望が湧き、精神的な苦痛から開放されるといった、QOLの向上が認められた。もし、ハイパーサーミアを早い時期から使うことができれば、ガンの縮小や患者の延命にもっと効果が上がると思われる。この治療が患者にとって良い治療であることは言うまでもなく、今後日本において、ハイパーサーミアがより認知されることが強く望まれる。

通院点滴療法室開設から1年の報告 I

～ 看護師の立場より ～

通院点滴療法室 千装真由美 浅場 香 芦川 恵子

通院点滴療法室が開設され1年が経過した。この1年の報告と今後の課題を、看護師の立場より報告する。

I. 通院点滴療法室の役割

近年、通院での外来化学療法はますます増加している。その背景には副作用対策の進歩や在院日数の